

科学技術政策シンポジウム（つくば）の意見概要

1 日時：平成17年10月3日（月）14：30～16：45

2 場所：文部科学省研究交流センター 国際会議場

3 出席有識者議員：薬師寺泰蔵

4 パネリスト：

- ・ 高橋秀知 筑波技術短期大学名誉教授
- ・ 油田信一 筑波大学副学長
- ・ 杉山佳延 産業技術総合研究所産学官連携推進部門長
- ・ 服部 誠 住友化学株式会社筑波研究所所長
- ・ 安藤正海 高エネルギー加速器研究機構教授
- ・ 自見友一 茨城県企画部科学技術振興監

5 参加者：109名

6 主な意見等

（1）国民の理解と支持に向けた取り組みの強化について

サイエンスカフェについてパネリストから紹介があったが、双方向コミュニケーションを行う場として他に何か具体的に考えがあるのか。

科学技術の国民理解のため、メディアへの露出が少ないのでないのではないか。ホームページでは興味を持った者のみしかアクセスしない。

国民に理解される科学技術として、成果を公表するだけではなく、どんなインパクトがあるのか、アウトカムがあるのか、といった追跡調査が必要であろう。その逆算の中で科学技術の重点化が考えられるのではないか。

（2）人材育成について

若手研究者について、ポスドクのキャリアパスはどういうふうに考えているのか。ポスドクは多数いて、人材としてかけがえのない方々であるが、そのすべての方々がパーマネントになれるという状況ではなく、そのため、かなり高齢になって研究職を離れなくてはならなくなりかねない。

若手研究者について、特に大学生、大学院生に対するエンカレッジメントについて第3期基本計画に盛り込んでほしい。具体的には、大学生、大学院生に研究者になってどういうメリットがあるか、どういうキャリアパスがあるかを国として示す必要があると思う。

外国人研究者の受け入れ促進について、基本方針の中にも書いてあるが、現状では関係する制度改革が大切であり、CSTPで具体的に議論してほしい。

短期間留学の外国人研究者に対する宿泊施設が不十分で、世界最低である。良い研究施設があるにもかかわらず、宿舎がいやだから筑波には来ないという外国人研究者がいる。

年金問題等、研究者の流動化の阻害要因の排除、流動化を促進するような具体的な施策を第3期で記述してもらいたい。

(3) 産学連携について

科学技術政策に関して、先端分野をつくる独創的基礎研究への長期的支援、大学発ベンチャーへの長期的支援、広い視野と専門性を持った複数異分野を専攻した人材の育成、一民間企業ではできない共通基盤的大型研究施設の開発整備を行い民間企業が利用促進できる仕組み作り、先端的研究に対する助成金方式のプロジェクトの推進、マッチングファンドへの一層の支援を期待する。

(4) 施設整備について

独法化しても施設整備は国に依存。独法独自で計画し、資金を回して建てるということができるようにしてほしい。また、筑波の施設は老朽化が進んでおり、耐震性の面でも問題があるので対応してほしい。

(5) その他

第3期基本政策の中間取りまとめでは、内容が短いタームでわかりやすく表現されている。

経済・環境・資源がそれぞれ単独では解決できない時代が来る。このため、これまでの議論の中で抜けていいる技術として、エコロジー（生態学）研究があり、第3期基本計画に入れてほしい。

国家基幹技術の考え方を教えてほしい。

国はこれまでつくばに2兆5千億円以上の投資をしてきており、これからすれば国はつくばをもっと活用すべきである。独法にしても、横（各省に横断した）の連携が必要である。

地域企業の活性化の面からも研究費は民間にも行くようにすべきである。

マネージメントについて人材の問題、機能の問題がある。産総研では15の研究所が統合したため、マネージメントの重要性は増しているが、評価委員会等ではマネージメントを減らせと言われている。このため、基本計画の中で、研究を支えるマネージメントの重要性を記載してほしい。

（以上）